

平成29年8月25日
株式会社七十七銀行

77B I (平成29年4～6月期)の調査結果について

株式会社七十七銀行（頭取 氏家 照彦）では、77B I（七十七景気インデックス）の平成29年4～6月期の調査結果をとりまとめましたので、下記のとおりお知らせいたします。

77B Iは、県内景気全体の動きを計量化し客観的に把握するため、鉱工業生産指数、消費動向指数、建築物着工床面積、有効求人倍率の4つの景気指標を合成して、当行が独自に作成した指数です。

記

1. 概況

(1) 平成29年4～6月期の77B I（暫定値、平成22年＝100、季節調整値）は、前期比1.1ポイント上昇の108.1と6四半期連続して上昇し、遡及可能な平成8年以降で最も高い水準（暫定）となりました。採用指標別にみると、前期に比べ鉱工業生産指数（暫定値）、消費動向指数、建築物着工床面積および有効求人倍率のすべてが上昇しました。

(2) このように77B Iは上昇しましたが、これは、消費動向指数や建築物着工が振れはあるものの概ね横ばい圏内の動きを続けるもとの、旺盛な海外需要が生産の増加や雇用機会の拡大へと波及したことなどにより鉱工業生産や有効求人倍率が一段と上昇したことによるものです。77B Iは、息の長い回復を続けており、高水準で推移しています。

2. 採用指標別動向

(1) 鉱工業生産指数

平成29年4～6月期の鉱工業生産指数（暫定値）は、前期比10.7ポイント上昇の134.0となり、2四半期連続して上昇しました。これは、引続き情報・通信機器関連の旺盛な海外需要を背景に、主力の電子部品・デバイス工業や生産用・業務用機械工業の生産が高水準で推移していることなどによるものです。鉱工業生産指数は、内需の一部に弱めの動きが残存していますが全体としては回復しており、現行基準(平成22年基準)では最高水準圏内に到達しています。

(2) 消費動向指数

平成29年4～6月期の消費動向指数は、前期比2.4ポイント上昇の98.5となり、3四半期ぶりに上昇しました。これは、乗用車の販売に持ち直しの動きがうかがわれたことや、春先の商戦で白物家電やスマートフォン、ゲーム機などの耐久消費財に新商品効果がみられたことなどによるものです。消費動向指数は、大型連休以降、娯楽関連の支出を抑える動きがみられたことなどから水準がやや低下しましたが、消費マインドに落ち込みはみられず、基調としては持ち直しに向けた動きとなっています。

(3) 建築物着工床面積

平成29年4～6月期の建築物着工床面積は、前期比16.6ポイント低下の142.5となり、2四半期ぶりに上昇しました。建築物着工床面積は、物流関連の大型施設が相次いで着工したほか、引続き需要の多い介護施設などにも動きがみられ、水準が再び上昇しました。建築物着工床面積は、振れを伴いながら概ね横ばい圏内で推移しています。

(4) 有効求人倍率

平成29年4～6月期の有効求人倍率は、前期比12.0ポイント上昇の354.2となり、2四半期ぶりに上昇しました。これは、労働市場における全般的な労働供給不足の状況下で、介護施設の増加や生産ラインの稼働率上昇などを背景に医療・福祉や製造業で労働需要が増加していることなどによるもので、有効求人倍率は過去最高を更新しています。

以 上

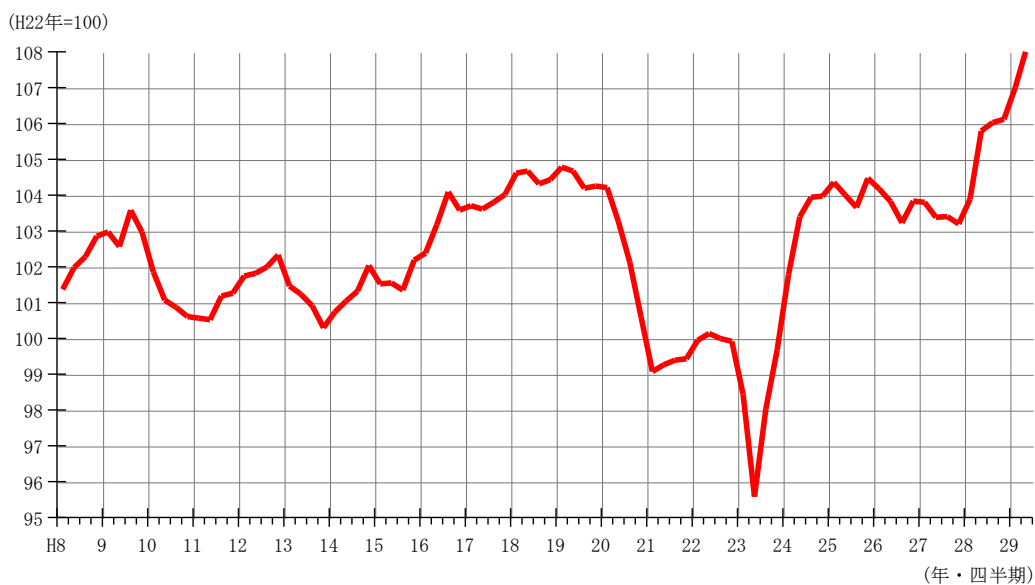
<本件に関するお問い合わせ先>

七十七銀行 地域開発部 調査課 田口

電話 022-267-1111 内線 2551～2553

(参 考)

図表1 77B Iの推移



図表2 77B I 推移表

(平成22年 = 100)

	77B I	(参 考)			
		鉱工業生産指数	消費動向指数	建築物着工床面積	有効求人倍率
26年度	103.7	92.1	99.5	157.5	287.2
27年度	103.4	90.4	93.2	132.8	304.5
28年度	106.1	110.9	98.5	136.0	336.8
25. 7～9	103.7	90.9	101.1	214.8	280.7
10～12	104.5	97.2	101.4	267.2	288.2
26. 1～3	104.2	97.4	101.1	117.1	287.4
4～6	103.8	97.9	98.4	160.0	282.2
7～9	103.2	88.9	100.5	114.7	279.2
10～12	103.8	89.1	101.3	239.2	289.7
27. 1～3	103.8	92.4	97.8	116.0	297.9
4～6	103.4	92.5	95.4	146.4	291.2
7～9	103.4	89.8	93.1	114.7	306.9
10～12	103.2	87.4	90.7	139.9	308.4
28. 1～3	103.9	93.1	93.5	130.4	311.4
4～6	105.8	110.8	99.2	150.7	325.7
7～9	106.0	111.2	99.6	102.9	333.2
10～12	106.1	107.0	99.0	164.6	346.0
29. 1～3	107.0	123.3	96.1	125.9	342.2
4～6	108.1	134.0	98.5	142.5	354.2

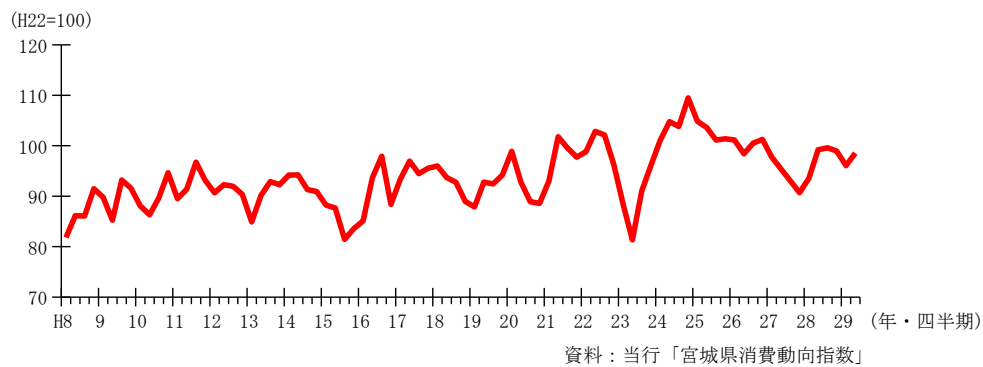
注) 鉱工業生産指数の平成29年4～6月の数値は平成29年6月の数値を前月と同値と仮定して算定した暫定値。

資料：宮城県、国土交通省、宮城労働局

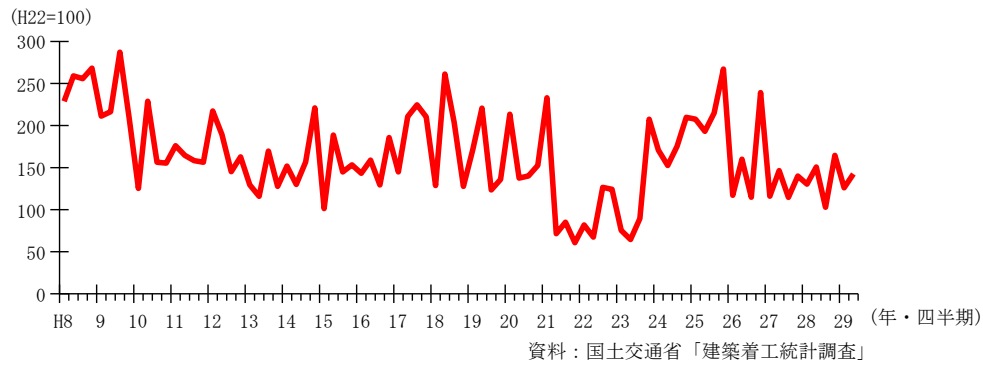
図表3 鉱工業生産指数



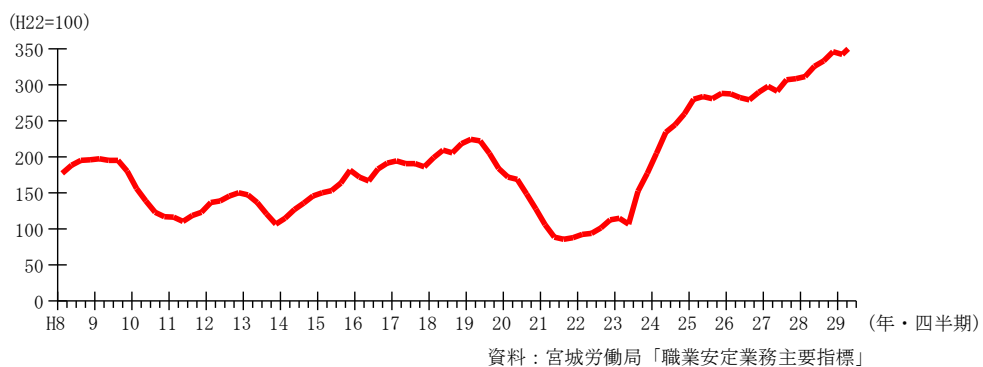
図表4 消費動向指数



図表5 建築物着工床面積（民間非住宅）



図表6 有効求人倍率



図表7 77B I 長期的推移表

(平成22年=100)

年	四半期	77B I
平成18年	I	104.6
	II	104.7
	III	104.3
	IV	104.4
19年	I	104.8
	II	104.7
	III	104.2
	IV	104.3
20年	I	104.2
	II	103.3
	III	102.1
	IV	100.6
21年	I	99.1
	II	99.3
	III	99.4
	IV	99.4
22年	I	99.9
	II	100.1
	III	100.0
	IV	99.9
23年	I	98.4
	II	95.6
	III	98.0
	IV	99.7
24年	I	101.8
	II	103.4
	III	103.9
	IV	104.0
25年	I	104.4
	II	104.0
	III	103.7
	IV	104.5
26年	I	104.2
	II	103.8
	III	103.2
	IV	103.8
27年	I	103.8
	II	103.4
	III	103.4
	IV	103.2
28年	I	103.9
	II	105.8
	III	106.0
	IV	106.1
29年	I	107.0
	II	108.1